

令和7年度 第3回学校運営協議会及び第2回コンプライアンス委員会 報告

1 日 時 令和8年2月12日（木）午後1時30分から3時まで

2 会 場 藤枝特別支援学校焼津分校 相談室

3 参加者

(1) 学校運営協議会委員

委員 A、委員 B、委員 C、委員 D 4人

(2) 本校職員

校長、教頭、事務長、部主事、教務主任 5人

4 会議次第

(1) 開会／校長挨拶

(2) 校内参観

(3) 協議1 令和7年度学校経営について

協議2 令和8年度学校経営計画（案）について

(4) 第2回コンプライアンス委員会

(5) 校長挨拶／閉会

5 会議内容

(1) 開会

ア 資料確認及び紹介

- ・資料確認と共に、雑誌「すろーかる」に掲載された焼津中央高校との海岸清掃・ギネス挑戦の記事や部活動などで分校が新聞掲載された記事一覧の紹介。また、Instagram 開設の案内、水産高校が台湾に持参する実習船のプレートを分校木工班が製作する交流の紹介を行った。

イ 校長挨拶

- ・1，2年生は職場実習、3年生は卒業制作と、年度末の節目の活動に取り組んでいる。今年度を総括すると、地域や焼津中央高校、焼津水産高校との連携を通じた活動が多くあり、生徒が飛躍的に成長した1年であった。

(2) 校内参観

【校内参観を終えて委員の感想】（意見（・）と、それに対する回答（→））

- ・各クラスで飼育されている金魚はどういった経緯で飼われているのか。

→1年生が水産高校との交流授業で卵から育てている。卒業時には自宅に持ち帰るか近隣の焼津南保育園へ引き取ってもらっている。

(3) 協議

ア 令和7年度学校経営について

(ア) 説明

① 評価方法の解説

- ・教職員、生徒、保護者へのアンケートに基づき、平均 3.5 以上を A 評価、2.5 ～3.4 を B 評価とし、目標達成度（90%以上）と併せて判定。

② 教職員自己評価

- ・「安全安心」「授業」「連携」の全領域で達成率 90%以上を記録。成果として日常的なコミュニケーションの活性化、Instagram、Google Workspace といった ICT や AI の活用による情報共有の進化が、点から線への前進をもたらした。課題として、南海トラフ地震や不審者対応など、より具体的で踏み込んだ訓練の必要性が挙げられた。

③ 生徒評価

- ・交通ルール、ICT 活用、キャリア面談、適正に合った職場実習、進路情報、自己理解、外部講師の学習で A 評価。特に ICT の活用技術向上が見られた。今後も苦手な言語化へのサポートをしつつ、生徒が自己理解を深め、なりたい自分を描き取り組むことを大切にしていく。課題となる言葉遣いに関しては、基本的なルールの確認や即時対応を継続。分校の PR では、Instagram の推進していく。

④ 保護者評価

- ・授業での成長や進路情報、教員の丁寧な対応が高い評価。学校からの返信の迅速化を図り、生徒の言葉遣いについては家庭と連携し指導を進めていく。

(イ) 委員の方からの御意見（・）、返答（→）

- ・ Instagram が始まり、子供の様子が直接見られて嬉しい。家庭での会話のきっかけにもなる。

→現在は教員が主導しているが、今後は生徒が授業や生徒会活動で自ら動画を作成し、発信する場として移行していきたい。

- ・ BYOD（個人端末）をまだ全員持っていないことについてどのような状況か。

→導入3年目を迎え、全学年に浸透しつつある。家庭の事情による未購入者には貸出機で対応しているが、卒業後も活用できるよう購入を推奨し続ける。

- ・ AI は具体的にどのように活用されているのか。

→教員間で NotebookLM を活用した議事録作成や情報集約を実施。次年度からは AI を用いた個別指導計画作成の補助により業務改善を図る。生徒についても Google フォームの classroom で情報を共有し、修学旅行も紙のしおりではなく、アプリを使用した。知的障害のある生徒にとっても、AI が言葉にならない思いを補うツールとしての可能性がある。

イ 令和8年度学校経営計画（案）について

(ア) 説明

- ・目標具現化の柱について、従来の3本にチームを加え、4本の柱とする。教職員の働きがいや同僚性を高め、働きやすい環境づくりを整えていく。
- ・評価について、数値目標に代わり生徒や教職員がどのような姿（行動）になるかという姿や行動による評価へ転換していく。

(イ) 委員の方からの御意見（・）、それに対する回答（→）

- ・姿による評価を具体化するため、達成基準を段階的に示すルーブリックの作成はどうか。レベル分けする中で、何をすれば次のステップに行けるかが可視化される。
- ・自社では、会社の達成目標に対して、社員が自分の目標を決めて文章で書き、その達成状況を5段階で示している。
→数値については、そもそもすべて100%を目指すべきだと心得ている。また、教職員についても自己目標を立てて取り組むようにしている。
- ・危機管理について、教職員は役割を100%分かっている、その上で生徒の主体的な避難行動を指導すべき。登下校に関しては、家庭の役割もある。
→生徒と教職員の成果目標について、整理して考えていく。

(4) 第2回コンプライアンス委員会

ア 取組報告

- ・セクハラ・体罰アンケート、情報セキュリティ研修、教職員の個人スマホ校務使用禁止などを計画通り実施。
- ・事故等の報告：生徒の骨折事故（体育・部活動）が3件。教職員の不祥事・公務災害・交通違反は0件であった。

イ 協議事項

- ・体罰問題について、現在中学校などでは地域クラブ化が進む中で、部活の外部講師のコンプライアンスをどうするかが課題となっていくと思う。分校では部活動を水産高校と共に行う機会はあるのか。
→サッカー部の全国大会前に水産高校と合同で練習を行った。通常一緒に行う機会はなく、行う場合は事前調整が必要である。
- ・BYODの個人端末以外に生徒が使える機器はあるのか。
→生徒も使用できるiPad、デジタルカメラがある。
- ・生徒間でも教職員間でも困りごとを言えるコミュニケーションが大切。
→分校は20名程度の小規模組織。その強みを活かし、何でも言い合える職員集団をつくっていくことで、不祥事防止とコミュニケーション活性化に繋げていきたい。
- ・職場で強く言われたことを殴られた、蹴られたと言ってしまう、問題となった事例があった。他の言い方ができず、そういった表現となってしまう

たことが後で分かった。社会全体でハラスメントへの意識が高まる中、生徒が職場の厳しい指導を誤解して「パワハラ」と捉えてしまうケースもある
→生徒に対し、正しい知識と社会的な捉え方を指導していくようにしたい。

(5) 閉会

ア 連絡事項

- ・次年度について、5月、10月、2月の3回開催を予定している。また、6月上旬に行う学校公開で委員の皆様に校内の様子を見ていただきたい。
- ・今年度で任期満了となる委員2名へ謝辞。

イ 校長よりお礼の言葉

- ・委員の皆様の意見を次年度の学校経営に反映し、新年度の計画を確定していく。チームの柱を強化し、教職員が元気に働ける職場から生徒の幸せを作っていく。